



今回のプロジェクトの華は何といても、「商品化」とこの「ウェブワーク」であろう。ウェブワークについては「21世紀のビジネスシナリオ」で詳述したが、簡単にいえば蜘蛛の巣の上での複相的な人と人との関係構築と業務遂行のことである。今回のプロジェクトにおいても全てのテーマのなかでウェブが積極的かつ自主的に構築され、構築されたウェブを巧みに活用して、新たなウェブの形成やウェブワークの増殖が見事に完遂されている。

自分の好きなことから発して、技術の調査に出向きそこでたまたま出会った人から、本来求めていたテーマに最適な人を紹介されるという事例や、飛び込みで訪問した先の人から新たに身体障害者を活用した新しい手造り生産方式に行き着いた事例もある。さらに個人的な相談がやがて企業や組織同士の公のおつきあいへと発展していった事例もある。また、情報空間としてのウェブツールを開拓した結果、人的な繋がりが広がりだし、情報空間のなかでウェブワークを実行している例もある。しかも重要なことは、このプロジェクトにおいて一端形成されたウェブは現在もそして将来的にも存続しうるということなのだ。ウェブが存続すれば当然ウェブワークも継続されるのである。一度生まれたウェブ及びウェブワークはプロジェクトを仕掛けた組織の自身の資産であると同時に、それを構築した個人の資産でもある。ウェブワークの本質にはこうした意味もあるのだ。

ライアルワトソンがその著書である「ネオフィリア」のなかで次のようなことを述べている。私たち人間は不思議な感覚というか能力を持っている。私たちが真剣に求めれば求めるほど、真に必要なものや人は向こうから訪れるというのだ。このなかにウェブワークの秘密が隠されているような気がする。つまり、私たちが何かを真剣に求めたとき、そこには既に理想的な仮想のウェブが用意されていて、「場における行為的直観」を実際に場や人のなかでバタバタともがくようにしていると、やがてその振動が周囲に伝搬してついには本命の蜘蛛に知らされ、蜘蛛が向こうからやってくるという図式である。真剣にもがくということは、とりもなおさず真剣に気持ちを伝えるということである。

その振動は本来行くべきところに的確に直ちに届くということであろう。従って、場へ飛び込むということ、そこで真剣に全力でもがき情報を発信することがウェブワークでは最重要なのである。そしてその結論は、最も適したものが予想以上に迅速に、向こうからやってくるように入手できるということなのである。ウェブワークの本質とはまさにここにある。メンバーの一人は今回の活動を振り返って、次のような感想を述べている。それは「ラッキーなことが連続していた」ということであつた。上記のウェブワークの本質で考えるならば、ラッキーの連続は偶然ではなく必然である。それを可能にしたのは積極的な場への飛び込みと真剣な思いの発信である。実際そのメンバーの行動はそのとおりのことをしてきているのである。的確に、そして迅速に新しいモノやコトを創造するのは創造的な集団にとって必須のことである。

